

福岡県の近代化と近代建築

福岡県の近代化

平成 30 年 (2018) は、明治改元 (1868) から起算してちょうど 150 年の年に当たります。慶応（江戸）から明治へ、これは単なる元号の改元だけでなく、国のあり方が大きく変革した時代でもありました。明治維新から本格的に始まった近代化への大きなうねりは、政治だけでなく、産業・経済・教育など社会全体に及び、欧米諸国の国力に肩を並べるには、取り組むべき課題は山積していました。日本の近代化をいち早く進めるためには、欧米の制度や技術を効率的に修得し、国内で実践することにありました。福岡県でも、維新の動乱と廃藩置県を経て近代化への道のりを歩み始めます。大陸に近く海運に恵まれた立地にあり、石炭の採掘を契機として製鉄や鉄道、その他関連する産業の分野が目まぐるしい成長を遂げ、明治中期以降、特に鉱工業の分野で著しく発展します。そうしたなか、明治政府や民間が採用した外国人技術者と日本人技術者たちが活躍し、福岡県の近代化を技術の側面から支えていました。

1868	明治元年	リチャード・ヘンリー・ブラントン（英）、お雇い外国人1号として来日
1871	明治4年	團琢磨、岩倉使節団と共に渡米、明治11年に帰国
1872	明治5年	ブラントン（英）が設計した郡埵灯台が完成
1883	明治16年	ヨハニス・デ・レーケ（蘭）、筑後川1回目の視察
1889	明治22年	ヘルマン・ルムシュッテル（独）、博多―鳥栖の鉄道開通
		團琢磨、三池炭鉱の最高責任者となり採炭の近代化に成功
1890	明治23年	ヘルマン・ルムシュッテル（独）、九州鉄道会社技師長に就任
		デ・レーケ（蘭）が監修した筑後川河口の導流堤（約6km）が完成
1891	明治24年	鉄道が旧門司駅（現門司港駅）まで延伸される。
1901	明治34年	官営八幡製鐵所、操業開始
1903	明治36年	野呂景義、八幡製鐵所のトラブルを解決、生産が軌道にのる
1908	明治41年	三條栄三郎、福岡県土木部技師となる
1910	明治43年	三條栄三郎が設計した福岡県公会堂貴賓館が完成
1914	大正3年	門司駅本屋（現・門司港駅）完成



福岡県の近代建築見学案内

- ① 重要文化財 旧門司三井倶楽部

〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町7-1 お問合せ 093-321-4151

開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）
- ② 重要文化財 門司港駅（旧門司駅）本屋

〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1丁目5-31
- ③ 重要文化財 旧松本家住宅

〒804-0021 福岡県北九州市戸畑区一枝1丁目4-33 お問合せ 093-871-1031

予約制の食事利用時のみ見学可 <http://www.nkc.or.jp>
- ④ 重要文化財 旧日本生命保険株式会社九州支店

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目15-30 お問合せ 092-722-4666

開館時間 9：00～22：00

休館日 毎月最終月曜日（休日の場合、翌日）、12/29～1/3まで
- ⑤ 重要文化財 旧福岡県公会堂貴賓館

〒810-0002 福岡県福岡市中央区西中洲6-29 お問合せ 092-751-4416

開館時間 9：00～18：00 休館日 月曜日（休日の場合、翌日）12/29～1/3まで
- ① 県指定 旧福岡県立豊津中学校講堂「思永館」

〒824-0121 福岡県京都郡みやこ町豊津973 お問合せ 0930-33-2003

見学時間 日中のみ 外観のみ見学可
- ② 県指定 旧百三十銀行橋支店

〒824-0003 福岡県行橋市大橋3丁目7-14 お問合せ 0930-23-7724

開館時間 10：00～18：00

休館日 火曜日（休日の場合、翌日）
- ③ 県指定 西南学院大学博物館・ドージャー記念館

〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新3丁目13-1 お問合せ 092-823-4785

開館時間 10：00～18：00（入館は17：30まで）

休館日 日曜日、夏季休暇（8/10～8/16）、キリスト降誕祭（12/25）、12/28～1/5まで
- ④ 県指定 旧清力酒造株式会社事務所

〒831-0008 福岡県大川市鐘ヶ江77-16 お問合せ 0944-86-6700

開館時間 9：00～17：00（入館は16：30まで）

休館日 月曜日（休日の場合、翌日）・年末年始
- ⑤ 県指定 旧長崎税関三池税関支署

〒836-0061 福岡県大牟田市新港町1-25 お問合せ 0944-41-2515

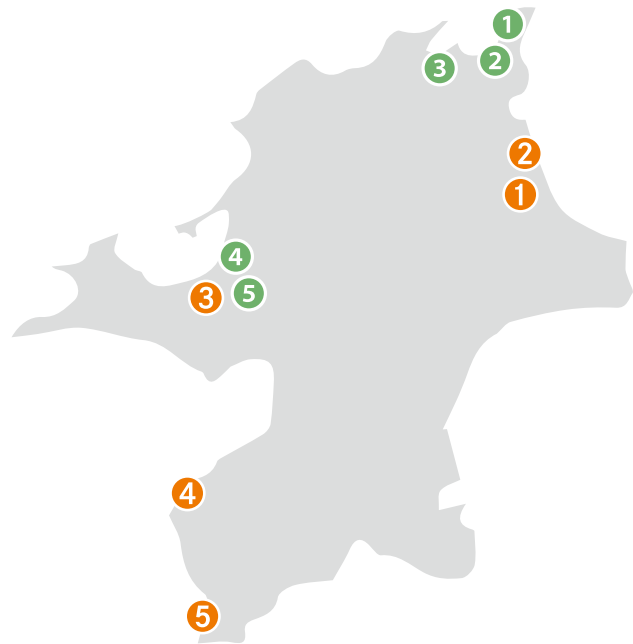
開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）

休館日 月曜日～金曜日（祝日は除く）、年末年始



日本人が学んだ西洋(ヨーロッパ)の歴史主義建築

19世紀の西洋では、公共性の高い建築は過去の建築様式に学び、再現するといった歴史主義の考えが主流となっていました。明治政府もそれに倣い外国人建築家らを雇い、公共建築や工場をつくります。一方で政府は大学等の教育環境を整えて人材の育成に努めます。明治12年(1879)、工部大学校造家学科から辰野金吾ら最初の卒業生が誕生します。欧米に留学した若者たちも含め、彼らが最初に取り組んだことは、西洋の歴史主義建築の修得にありました。当時の日本が欧米に負けない施設や街を建設するには、西洋建築の学習は不可欠な時代だったのです。努力が実り、明治中期頃から日本人建築家による本格的な西洋建築がつくられ始めます。明治が終わりを告げる頃、彼らによる歴史主義建築は成熟期を迎え、当初の目的は達成されます。福岡県でも西洋建築を学んだ建築家や大工らが活躍し、明治期から大正期にかけて優れた建物がつくられました。その一部をご紹介します。



福岡県の近代建築

①重要文化財 旧門司三井倶楽部（北九州市門司区）



三井物産の門司における社交倶楽部として大正10年(1921)に建築された。設計は松田昌平による。急勾配の大小の切妻屋根や柱・梁を見せるハーフティンバーの外観はドイツなど、ヨーロッパで流行した建築様式である。

②重要文化財 門司港駅（旧門司駅）本屋（北九州市門司区）



現在の駅舎は大正3年(1914)に完成した。設計は鉄道院九州鉄道管理局工務課が担当した。建物外観はネオ・ルネッサンスを基調に、正面入口にはヨーロッパの駅舎に見られるジャイアントオーダーが表現されている。

③重要文化財 旧松本家住宅（北九州市戸畑区）



洋館は明治44年(1911)の建築。設計は辰野片岡事務所による。屋根を高く上げ2階外観をハーフティンバー形式でまとめ、室内に曲線が特徴のアーチルーバーを多用した美しい意匠を有する住宅建築である。

④重要文化財 旧日本生命保険株式会社九州支店（福岡市中央区）



日本生命保険株式会社の九州支店の設置に伴い、明治42年(1909)に竣工した。設計は辰野片岡事務所による。イギリスで19世紀後期に流行したクイーン・アン様式を用い華やかに見せる独自の意匠(辰野式)でまとめる。

⑤重要文化財 旧福岡県公会堂貴賓館（福岡市中央区）



明治43年(1910)、第13回九州沖縄八県連合共進会会期中の迎賓館・宿泊所として建築された。設計は福岡県の技師であった三條栄三郎による。外観はフレンチ・ルネッサンスを彷彿とさせる意匠で仕上げる。

①県指定 旧福岡県立豊津中学校講堂「思永館」（みやこ町）



旧豊津中学校の講堂として、明治35年(1902)に竣工した。設計は福岡県の技手による。外観は下見板を張る簡素な仕上げとするが、室内と演壇にイオニア式の柱を使用する古典主義の流れを汲む学校建築である。

②県指定 旧百三十銀行行橋支店（行橋市）



百三十銀行の行橋支店として大正3年(1914)に建築された。清水組の設計施工、辰野片岡事務所が監督した。外観はルネッサンスを基調にセセッション風の意匠を加味したもので、歴史主義の様式解体期の特徴を示す。

③県指定 西南学院大学博物館・ドージャー記念館（福岡市早良区）



旧西新町(福岡市早良区西新)に移転した私立西南学院の本館・講堂として W.M.ヴォーリズが設計した。アメリカ南部の住宅建築の様式であるジョージアン・コロニアルスタイルを用いた学校施設。大正10年(1921)竣工。

④県指定 旧清力酒造株式会社事務所（大川市）



旧清力酒造株式会社の事務所棟。外壁下見板張の洋風建築で大工頭であった箴島傳太郎による施工で大広間や屋根、窓周りに古典主義的な意匠を用いる。明治39年(1906)上棟。地方大工による洋風建築の好例。

⑤県指定 旧長崎税関三池税関支署（大牟田市）



明治41年(1908)の三池港開港に伴い開設された税関である。外壁は下見板張、室内外ともに装飾は少なく簡素にまとめる。古典主義建築の意匠を踏まえつつ、求められる税関機能を具体化させた近代的な建築である。